



薬代の軽減に効果的なジェネリック医薬品が推奨されています ジェネリック医薬品への切り替えは 医療機関や薬局にご相談を

価格が新薬に比べて安く、同じ有効成分、効能・効果を持つジェネリック医薬品。そんなジェネリック医薬品の概要と切り替えの方法を紹介いたします。

国がジェネリック医薬品を推進するのはなぜ？

薬の価格は3割以上、中には5割以上安くなる場合も

新しい医薬品は開発に長い時間と多くの費用がかかります。

しかし、ジェネリック医薬品は、これまでに使われてきた薬の特許が切れた後に、同等の品質で製造され

る薬ですので、開発期間が短くて済み、薬自体の価格は当然安くなります。

ただ、窓口で支払う患者負担金(薬代)は、薬自体の費用のほか調剤料などが加わりますので、薬代が下がらない場合があります。

※今まで医療機関で薬を処方(院内処方)されていた人が調剤薬局など(院外処方)でジェネリック医薬品に切り替えた場合は、薬自体の価格は下がっても、調剤報酬(調剤基本料などの診療報酬)が変わるため、薬代が下がらない場合があります。金額については、医療機関または薬局に事前にご相談ください。

効き目はもちろん、

安全性も同等なので安心

ジェネリック医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきた先発医薬品(新薬)と同等の成分で製造された後発医薬品なので、安全性が確認されています。

さまざまな病気や症状に対応

高血圧や高脂血症の薬、糖尿病の薬など、さまざまな病気や症状に対応しています。カプセル、錠剤、点眼剤など形態も豊富です。

どうやって、ジェネリック医薬品に切り替えるの？

●院内処方の場合

病院や診療所などの医療機関内で薬をもらう場合は、受診したときに医師に相談しましょう。

●院外処方の場合

病院の近くや近所の調剤薬局などで薬をもらう場合は、処方せんのジェネリック医薬品への変更不可の欄に、医師のサインがなければ、ジェネリック医薬品に切り替えることができます。薬剤師に相談しましょう。

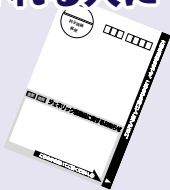
注意事項

●医師が使用を認めない場合は、切り替えることができません。

●すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

国保に加入している人で、**院外処方**を受けた人へ

薬代の軽減効果が期待される人に「ジェネリック医薬品に関するお知らせ」を送付しています



対象疾患や薬代の軽減効果などで絞り込みを行った結果、薬代の軽減効果が期待される人にお知らせを送付しています。

対象 同一成分のジェネリック医薬品に切り替えた場合に薬代(自己負担額)が1カ月当たり500円以上安くなる可能性がある人

送付時期 7月・11月・3月(年3回)

注意

このお知らせは、ジェネリック医薬品への切り替えを強制するものではありませんので、切り替えについては医療機関や薬局にご相談ください。